

## 教育長の夢は断たれた!

岡崎 勝

ボクは今年度、自分の所属している組合の執行委員長になった。これ程「名誉」なことはない!.....と言うのもちょっと恥ずかしいけど。組合名が「がっこうコミュニティユニオン・あいち(略称ASCU、アスク)」という。結成して11年になる。日教組や全教との関係はない。上部団体とか政党と無縁の、いわゆる自立独立系組合である。

毎年夏に、全国の仲間の組合が集まって交流集会を開いている。全国にこういう組合が15個ある。また一つできるかもしれない。全国あちらこちらにできている。一応、行政当局に届けを出して「登録団体」になっている。

アスクは公称50名で小中高の学校労働者で組織されている。しかし、長く書記長をやってきたボクは、いままで「機関決定」なるものに、きちんとめぐりあったことがない。つまり、アスクのメンバーは大抵学校に一人しかいない。二人以上になると「配転」させられることになっている(ようだ)。だから、「私の決定=組合決定」ということになって、各分会の実態に合わせて「適切に組合決定ができる」のである。これは、当然のことながら校長や教委に混乱を招く。あの学校では要求しているのに、こちらの組合では「まあいいんじゃないの」とか言っている。時には「同じ組合員だからといってもな、人格は別だ、一緒にするな!」と言う人もいるらしい。しかし、たとえ辛党と甘党でも、抗議行動だけはいつも一緒にやることになっている。面倒な話し合いになる執行委員会や全員会にはあまり出席しないが、抗議だけは、きちんと来る人が多い。「今日は、なんの抗議だっけ?」と小声でボクに聞いたりする人もいてワクワクするけど。「じゃあ、これで決着ですね」とまとまりかけると、組合員が「それはいかん! 謝罪が必要だ!」などと言って、身内で意見が食い違い、当局も誰が代表か分からなくなって困惑することもある。きよろきよろしていると、「何をキョロキョロしとるんだ!」と我が組合員に叱られてしまう管理職もいる。

ボクたちは極めて論理的でかつ合法的なのだが、当局はまったくそうでない。これにはいつも驚く。教育課長に「教育長はどこですか?」というど「ちょっと分からない」というので、「そうかそうか、じゃあ明日からボクらが勤務時間中にどこかへ行っていなくなっても、絶対に処分するなよ!」と言うことにしている。先日などは、会いに行った課長が湯沸かし室で電気を消して隠れていたのを見つけたが、まったく面白いことばかりが起きるから抗議はやめられない。でも、アスクのメンバーだけで学校を作ったら、ボクは、多分すぐに「転勤希望」を出すだろう。こういう組合の委員長は、ほとんど存在感も責任もなく気楽にできるのである。これでボクも教育長の座をあきらめることになったのは残念だが.....?!

ご無沙汰しています。総会以降の運営委員会報告をします。

篠原 睦治

(日本社会臨床学会第III期運営委員会委員長)

会員の皆様や総会に協力して下さった方々から、「雑誌はまだですか?」「楽しみにしています」といった声をうかがっている。今年5月初旬の第6回総会から半年以上が経ってしまった。そして、「夏の合宿のお知らせ」を載せた『社会臨床ニュース』32号が出てからも半年近くになる。会員の皆様には、愛想をつかれてしまっても仕方がない程にご無沙汰になってしまった。まずは、お詫びを申し上げます。

本日、『社会臨床雑誌』第6巻第2号がやっと出た機会に、この間の第III期学会運営委員会活動の経過と課題を報告することにした。

「夏の合宿」は30数名の参加予定で、「現代社会とカウンセリング」を語り合うことになっていたのだが、台風が襲ってきていて電車が止まりそうな事態で中止にした。いつもだと、合宿で、秋以降のプログラムや次回総会の展望を出すのだが、今年はそれが出来ず、出鼻を挫かれた感じになった。

その代わりに、秋には都心で一日学習会を、と考えてみたが、「夏の合宿」は、第6回総会でお約束した出版の段取りとしても行うようになっていたために、この期に及んでは、出版を先行して、その後、PRも兼ねて、集中的に「現代社会とカウンセリング」を考えていこうと方針を換えた。確かに、昨今、「上」から断続的に下ろされてきているスクール・カウンセリングの問題等を、今、社会臨床学会はどう考えるのかを発言しなくてはならないとも思うが、これもあれも先延ばしにしている。

こうして学会運営委員会は内向してしまった感を逃れないのだが、その分、総会以後、私たちは、普段以上に運営委員会を重ねてきた。総会以降、4回開いたが、会員の皆様に知ってほしいこと、一緒に考えていただきたいことを中心に、以下に簡単に報告する。

6月14日 今回総会の反省だが、運営委員会は会場校の卒業生からなる実行委員会におんぶし過ぎていなかったか、総会会計が赤字になったが、会場校からの補助金、甘く見積もった会費納入額をあてにして、普段よりも多くのプログラムを慎重さを欠いた見積もりで実施したためではないか等が出た。来年度総会は、都心の市民会館的なところで、運営委員会が実行委員会的役割も果たしつつ、総会のあり方やイメージの再模索も兼ねて開催しようとなった。また、総会を誰にも開くということはいいことだが、それにしても非会員を発題者に招きすぎていないか、会員、運営委員がもっと中心になる総会のあり方を追求してもいいのではないかという意見が出た。そして、「夏の合宿」の段取りを決めた。

9月20日 中止になった「夏の合宿」の代替プログラムは、当該本の刊行作業を先行することで行わないことにした。学会誌、単行本での総会記録の段取りを決めたが、その中で、今後、「資格・専門性」問題をどのように論じていくのかを話した。「現場」に進行している現実を見つめつつ、その矛盾を語り合い、その中で、「資格・専門性」を対象化する必要である、そのための分析の方法論を考えなくていいか、批判を越えて実践的な展望を探る作業をしなくていいのか等の問題提起が出た。

10月11日 一運営委員から、「総会プログラムの一部で強く感じられたが、構成や内容が『理念・理論』中心で、『現場』から学ぶとか『現場』と一緒に考える姿勢が弱くなっていないか。運営委員の発言が続くことがあり、誰でも自由に発言する雰囲気を抑止することになっていなかったか」といった発言があり、これをめぐって討論があった。「あるテーマ、課題との関連で、当該の『現場』があるし、自分も『現場の人間』になることがある。その場合にしても、『現場』から離れて『現場』を相対化すること

で、いろいろな立場の人たちと考えたい」「運営委員であろうとなかろうと、肩書きにこだわらずに自由に語りたいと思う。『自由な雰囲気を作る』という配慮の中で、かえって発言が限定されたり、不自由になったりすることがある」「『現場』の矛盾や悩み(例えば、カウンセリング批判の中でカウンセリングを行うこと、資格批判の中で資格を取ること)に具体的に応える必要はないか」「個別の『現場』の矛盾や悩みに関われるのか、関わっていいのか。その矛盾や悩みに気づき続ける議論のほうが必要でないか」など。

総会日程、会場が確定(次頁参照)。内容については、「生と死の医療管理」問題、「情報化社会と人間関係の変容」など幾つか挙がったが、確定するに到らなかった。

編集委員長中島さんから、総会・分科会報告の締切は7月末日だったが、原稿が順調に集まらず、困っているとの窮状が訴えられ、催促がなされた。

11月8日 この時点でも、総会記録を中心とした第6巻第2号、3号の見通しははっきりしない中で、第2号を12月20日発送と決定した。さらに、次回総会迄に、第3号、第7巻第1号を発行していくことを確認した。また、次回総会までに、コンパクトにまとめた、しかも、各執筆者の視点を全面に出した、もう一冊の第6回記録(単行本)を、現代書館から出版すると、会員と出版社に約束したが、運営委員会は、執筆予定者を中心に、その実行を再確認した。なお、『現代社会とカウンセリング(仮題)』(現代書館)は、原稿がほぼ揃いつつある段階にあり、執筆者たちとの調整に入っている。

このように、運営委員会で抱えてしまった書くこと、編むことの仕事たまっている。そのため、これらの仕事を仕上げるのが優先との判断から、総会で約束し慣例でもある学習会など、総会前の、総会に向けてのプログラムを実施しないこととした。

前回運営委員会で発案されていた総会のシンポジウム二本についてさらに考えた。「情報化社会(大衆消費社会)と人間関係の変容」については、「ひきこもり」現象・言説を切り口に議論できないかと考えたが、まとまらず無理と判断した。もうひとつ、「生と死の医療管理」問題を「自己決定権とカウンセリング」を軸に考えたらどうかの議論をしたが、およそその線を了承した。ただし、議論不足の為、最終確定としなかった。ついで、大学のあり方が「上」から「下」から問われている今日、改めて、学校総体、学校化社会を「社会臨床」的に(?)再考する機会をもったらどうかの案が出た。

今日まで、会員にご無沙汰のまま事態が進行しているので、運営委員会報告を中心に、第6巻第2号発送と一緒に『社会臨床ニュース』33号を出すこととした。

ところで、雑誌もニュースの発行も、諸集会の開催も十分に実行できないことの結果と自覚していますが、会費の納入状況が大変悪くなっています。このままだと、第6巻第3号以降の雑誌発行が難しくなる事態になっています。会員の皆様が予定通り納入してくだされば、これらの事業は可能になっていますので、どうぞ、よろしく願います。

第7巻第1号は、次回総会の準備号になりますが、当該号も、いろいろな論文、本と映画で考えるこの場所からでにぎやかにしたいと願っております。2月末日が締切ですので、どうぞ、ご自由にご投稿ください。既刊号に掲載の論文、エッセイに対するご意見、ご感想もお寄せくだされば幸いです。

追って、正式に公示しますが、次回総会で、第IV期運営委員会委員を選出しなくてはなりません。第III期運営委員会は、しっかり総括を出しつつ、第IV期活動につなげていきたいので、その作業に入りますが、会員からの積極的な参加を期待しています。

以上でお分りのように、運営委員会が会員の皆様と対面し肉声で一緒に考える機会は、次回総会になりました。その折りまでに、以上に述べた幾つかの刊行の作業を遂行して参りますので、どうぞ、今後とも、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

(1998/11/24)



## 日本社会臨床学会第Ⅳ期運営委員選出のお知らせ

日本社会臨床学会選挙管理委員会

山本 栄子

山野 良一

会則に基づき、一九九九年四月に行われる第七回総会では、役員の改選が行われます。つきましては、これに先立って、運営委員の立候補を受け付けます。

会則では、本学会運営委員は、会員より自主的に立候補し、総会において会員の承認を受けて決定されることになっています。これに先立って、立候補の主旨を、立候補声明として『社会臨床ニュース』三四号(第七回総会準備号)に掲載します。

立候補される方は、立候補の主旨を四百字程度にまとめて、立候補声明として、事務局気付選挙管理委員会までお送り下さい。用紙はどのようなものでも構いませんが、お送りいただいた原稿はお返しいたしませんのでご了承下さい。

声明の〆切は、一九九九年二月二十八日とします。

### 事務局よりお知らせ

#### お詫び

先号の『社会臨床ニュース』三二号で、第六回総会の感想をお寄せいただいた神田けよ子さん(『精神医療は改革されてきたのか』に参加して、執筆)のお名前を、過って神田けよ子さんと表記してしまいました。申し訳ありませんでした。ここにお詫び申し上げますと共に訂正させていただきます。

### 社臨、これからの予定

#### 日本社会臨床学会第七回総会

日時：一九九九年四月二 四日～二五日

場所：江東区森下文化センター(東京都)

一九九九年一月十日.....運営委員会(こもん軒・東京駒込)

### 社会臨床ニュース第33号目次

教育長の夢は断たれた(岡崎勝).....	1
ご無沙汰しています。総会以降の運営委員会報告をします。.....	2~3
日本社会臨床学会第Ⅳ期運営委員選出のお知らせ.....	4
事務局よりお知らせ/社臨、これからの予定.....	4